

第5学年国語科学習指導案

5年1組 20名 指導者 飯田 和樹

5年2組 18名 指導者 根本 靖子

1 分科会提案

(1) 「よい学習」

高学年分科会第5学年の目指す「よい学習」とは、「自分の学びの現在地が分かっている」、「やってみよう」、「もっと学びたい。」と思える学習である。

(2) 「よい学習」を実現するための手だて

① 明確なゴール設定

学習のゴール設定を明確にすることで学習への意欲が高まると考える。明確なゴール設定をするためには、単元の導入場面での課題設定が重要になる。今回は、「町六環境サミット」開催をゴールに設定した。児童がジャーナリストとして自分の関心のある環境問題について調べ、文章にまとめるという学習計画を作っていく。

児童の関心のある環境問題について調べる活動は、総合的な学習の時間に行う。環境問題についての課題を設定し、その解決に向けて自分たちの生活を振り返らせる。身近な問題を課題に設定するようにすることで自分事として学習に取り組めるようにする。

文章にまとめる際は、自分の考えに合った資料を用いることができるようにする。「固有種が教えてくれること」で学んだことを生かしながら文章にまとめさせる。

② 学びを振り返るための足跡の設定

学習カードに、学んだこと、学習方法、そして今後の課題などを記録させることで、児童は自身の学びの軌跡を視覚的に捉えることができる。この「学びの足跡」をたどることで、児童は自分の成長を実感し、さらなる学習意欲へと繋がると考える。

2 単元名 「目指せジャーナリスト！町六環境サミット 2024」

教材名 「固有種が教えてくれること 自然環境を守るために」(光村図書 国語5年)

3 教材観

本単元は、「読むこと」の説明的な文章教材「固有種が教えてくれること」と「書くこと」の教材「自然環境を守ること」で構成される複合教材である。

「固有種が教えてくれること」では、地図・表・写真・グラフなどの資料を提示しながら本文と対応させて読み、それらの資料の意味や効果を考えるとともに、文章全体を俯瞰的に見て筆者の論の進め方について考える。ここで生まれた興味・関心を「書くこと」で自分の意見を表現することにつなげていく。

「自然環境を守ること」では、総合的な学習の時間に設定した自分の身近に起きている環境問題の中から、自分の考えに合った資料を選ばせ学習を進めていく。「固有種が教えてくれること」で学んだことを生かしながら、資料と対応させて文章を書くことができるようにする。書いた文章は友達と読み合い、意見や感想を伝えながら推敲を重ね、より良い文章になるようにする。

4 単元の目標・評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することができる。(2)イ	・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。C(1)ウ ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。B(1)エ	・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	◆資料に関連する文章を図示して、情報を整理できることを理解している。(2)イ	◆「読むこと」において、筆者の考えや資料から分かることについて考えている。C(1)ウ ◆「書くこと」において、自分の課題に合った資料を用いて環境問題の解決についての意見文の書き表し方を工夫している。B(1)エ	◆積極的に文章と資料との対応を捉え、学習の見通しをもってその効果を考えようとしている。 ◆自らの学習課題を設定し、見通しをもって粘り強く環境問題について解決していこうとする文章を書こうとしている。

5 児童の実態

(1) 1組

「言葉の意味が分かること」の学習では、自分の経験と結び付けながら筆者の考えを読んでいったが、難しさを感じている児童が半数程度いた。クイズ作りでは、個人で考えることが難しい児童が2割程度いたが対話を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができた。考えの根拠となる経験を想起させ、クイズ作りの具体例を資料として提示することで、全児童が自分の考えを意欲的に表現することができた。

(2) 2組

5月に行った説明的な文章「言葉の意味が分かること」の学習では、筆者の考えを基に生活の中での言葉の使い方について考え、言葉の広がりに関するクイズ作りを行った。文章中の筆者独特の言葉が何を伝えているのか理解した上でクイズを作ることができる児童は6割程度だったが、トリオグループでの活動を取り入れ、学んだことや身に付けたことを他者と共有することで、ほとんどの児童が自分の考えを深めたり広げたりすることができた。

6 指導計画

次	時	主な学習活動	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
1次	1	①資料を用いた文章を読んだり、資料の効果を生かした文章を書いたりする学習の見通しをもち、学習計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料にはどのようなものがあるか考えさせる。 ・「町六環境サミット」と題して、関心のある環境問題について意見を述べる文章を書くことを伝え、本単元の具体的なゴールイメージをもたせるようにする。 ・「ジャーナリスト」という職業や「環境サミット」という言葉の意味について分かるようにする。
2次	2・3	②「固有種が教えてくれること」を読み、感想や問いをもつ。 ③文章の構成と内容を捉える。 ④文章の要旨をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験と結び付けて、初めて知ったことや興味をもったことなど、感想をもたせる。 ・文章を「初め」「中」「終わり」に分けて構成と内容を確認、要旨を捉えやすくする。 ・繰り返し出てくる言葉や、筆者の考えが書かれた段落を中心に、要旨をまとめられるようにする。 ◆資料に関連する文章を図示して、情報を整理できることを理解している。【知】 ☆発言・記述
	4・5・6・7(2組本時)	⑤文章とそれぞれの資料を結び付け、その効果について考えたことを自分の言葉でまとめる。 ⑥筆者の考えや資料から分かることについて自分の考えをまとめ、対話する。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に対応する文章に線を引かせる。 ・文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすることで、必要な情報を見付けたり、論の進め方を捉えたりできるようにする。資料ごとに行う。 ・資料の効果について考えるときは、筆者の立場や読み手の立場に立って考えるようにする。 ◆積極的に文章と資料との対応を捉え、学習の見通しをもってその効果を考えようとしている。【態】 ☆観察・発言 ◆筆者の考えや資料の効果から分かることについて考えている。【思】 ☆発言・記述
	総合的な学習の時間	○自分の調べたいことや考えを深めたいことを見付け、自分の考えをもつ。 ○自分の考えに合った資料を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が解決したいと思う環境問題を選び、その問題に合った資料を作成するように助言する。
3次	8(1組本時)・9・10・11	⑦設定した問題に対して、自分の考えと活用する資料が適しているかどうか、友達と交流して確かめる。 ⑧目的をもって文章を書く。 ⑨町六環境サミット2024を開き、書いた文章を基に発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋やカード等を用いて、何をどのような順序で書くのか考えられるようにさせる。 ・友達からのアドバイスを参考に、資料を修正したり追加したりして、文章を書くように助言する。 ◆自らの学習課題を設定し、見通しをもって粘り強く環境問題について解決していこうとする文章を書こうとしている。【態】 ☆観察・記述 ◆設定した課題が自分の考えや活用する資料に適しているかどうか考えることができる。【思】 ☆観察・記述

			◆自分の課題に合った資料を用いて、環境問題の解決についての意見文の書き表し方を工夫している。【思】☆発言・記述
--	--	--	---

7-1 本時の学習 5年2組(7/11 時間目)

(1) 目標

文章と資料6、7との対応を捉え、資料の効果を考える。

(2) 展開

	○学習活動 C：想定される児童の発言	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (10分)	○前時を振り返り、単元のゴールと本時のめあてを確かめる。	・見通しをもたせるため学習カードを確認し、学習計画を確認させる。
	資料の効果を考えよう。	
展開 (30分)	○資料6・7と文章の関わりを確かめる。 ○資料に対応する文章を確認する。 個の時間(2分) ↓ 全体の時間(3分) ○資料の効果について考える。 個の時間 ↓ トリオの時間 C：資料があると天然林等の面積やニホンカモシカの捕獲数が分かりやすいです。 C：資料があることで筆者の伝えたいことがはっきりします。 ○資料の効果について、考えたことをまとめる。	・資料の効果を考えやすくするために資料に対応する文章に線を引く。 ・文章のどの部分と結び付くのかを明らかにすることで、必要な情報を見付けたり、論の進め方を捉えたりできるようにする。 ・資料の効果について考えるときは、筆者の立場や読み手の立場に立って考えさせる。 ・対話するときの視点を示す。 ①資料があることのよさ ②こういう資料があったらいい、この資料からは○○とは言えない。(批判的な考え) ・資料をより具体化するために、別資料を用意し必要な場合に配布する。 ・トリオの時間に出会えなかった考えを全体に紹介することで、考えの多様性を確保する。 ◆文章と資料6、7との対応を捉え、筆者の考えや資料の効果から分かることについて考えている。【思】☆観察・記述
まとめ (5分)	○本時の振り返りをする。	・資料の効果について考えるために、どのような学習過程を辿ってきたかが分かるように学びの足跡(学習カード)に書かせる。

(3)具体的な児童の姿と目標の実現を目指すための手だて

十分満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	努力を要すると判断した児童(C)への 具体的手だて
文章と資料との対応を捉え、資料の効果を考えることができる。また、自分の表現に生かせる点を見付けている。	文章と資料との対応を捉え、資料の効果を考えることができる。	資料がある場合とない場合で考えさせ、資料の効果を捉えさせる。

(4)板書計画

目指せ ジャーナリスト！町六環境サミット 2024

めあて 資料の効果を考えよう。

授業の流れ

一：資料に対応する文章
個人 ↓ 全体

二：資料の効果
個人 ↓ トリオ

対話するときの視点

- ・資料があることの良さ
- ・こういう資料があると良い
- ・この資料から○○とは言えない

三：振り返り

- ・どのように資料の効果を考えたか
- ・友達と対話して気付いたこと
- ・次の学習に生かしたいこと

※モニターに資料と本文を映す

(5)机間指導の目的(◎)と声掛け(・)

◎資料に対応する文章を見付けさせる。

- ・資料6、7は何を表す資料ですか。
- ・10段落に着目して読んでみましょう。
- ・天然林等面積の推移について書かれた文章を見つけましょう。
- ・ニホンカモシカの捕獲数について書かれた文章を見つけましょう。

◎資料の効果を理解できるようにする。

- ・資料6、7があることのよさは何ですか。
- ・資料6、7がなかったらどうですか。
- ・資料があるときとないときでは、何が違いますか。
- ・他にどんな資料があるといいですか。

◎資料の改善点を考えさせる。

- ・2つの資料は始まりの年数が違いますが、どんな資料だとよいですか。
- ・2つの資料の年数はばらばらですが、どんな資料だとよいですか。
- ・1980年に着目して考えてみましょう。
- ・ニホンカモシカが全部で何頭いるか分かる資料があるといいですね。

7-2 本時の学習 5年1組(8/11時間目)

(1) 目標

設定した課題に対して自分の考えや活用する資料が適しているか考える。

(2) 展開

	○学習活動 C：想定される児童の発言	・指導上の留意点 ◆評価規準 ☆評価方法
導入 (10分)	○前時を振り返り、単元のゴールと本時のめあてを確かめる。	・見通しをもたせるため学習カードを確認し、学習計画を確認させる。
	友達と話し合い、自分の考えと選んだ資料のつながりを考えよう。	
展開 (30分)	○設定した課題に対して、自分の考えと資料のつながりを確かめる。 (個の時間) ・資料から分かる情報が正しいか確認する。 ・資料と自分の考えがつながっているか確認する。 (トリオの時間)同質→異質 ・資料から分かる情報が正しいか対話する。 ・自分の考えと資料がつながっているか対話する。 C：地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出量が増えていることがこの資料から分かります。 C：電気の消し忘れについてクラスのみしか調べていないので電気の使用量が増えているか分かりません。全クラスを調べたほうがいいと思います。 ○対話を通して、新たに気付いたことや考えたことをまとめる。(付け足し・修正)	・身近な環境問題について自分が設定した課題が、自分の考えや集めた資料に適しているか振り返り、より自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫させる。 ・説得力のある文章を書くために、資料から分かる情報について正しく整理させたり関係付けさせたりする。 ・価値ある対話となるように、話し合うことを明確に示す。 ・同質→課題が同じ。 ・異質→課題が異なる。 ・異質で話すことにより、着目する視点が広がるようにする。 ①資料から分かることが正しいかどうか。(注目している言葉や数字)→一緒に資料を読み、分かることを伝える。 ②資料と自分の考え、その理由がつながっているかどうか。 ・友達の見方や考え方から、自分の考えを深めさせたり広げさせたりする。 ◆他者との対話を通して、設定した課題が自分の考えや活用する資料に適しているかどうか考えることができる。【思】☆観察・記述
まとめ (5分)	○本時の振り返りをする。	・自分の考えと選んだ資料が適しているかを考えるために、どのような学習過程を辿ってきたかが分かるように学びの足跡(学習カード)に書かせる。

(3)具体的な児童の姿と目標実現を目指すための手だて

【本時】

十分満足できる(A)	おおむね満足できる(B)	努力を要すると判断した児童(C)への具体的な手だて
設定した課題が自分の考えや集めた資料に適しているかを振り返りながら、より自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	自分の考えと集めた資料が適しているかを考えながら、書き表し方を工夫している。	自分の考えが集めた資料のどの情報と適しているかを確認し、書くことができるようにする。

(4)板書計画

<p>目指せ ジャーナリスト！町六環境サミット 2024</p> <p>めあて 友達と話し合い、自分の考えと選んだ資料のつながりを考えよう。</p> <p>授業の流れ</p> <p>【話し合うこと】</p> <ul style="list-style-type: none">・資料から分かる情報が正しいか。・資料と自分の考えがつながっているか。・他にどんな資料があるとよいか。 <p>一. 個人の時間</p> <p>二. トリオの時間</p> <p>三. 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none">・どのように資料の効果を考えたか・友達と対話して気付いたこと・次の学習に生かしたいこと

(5)机間指導の目的(◎)と言葉掛け(・)

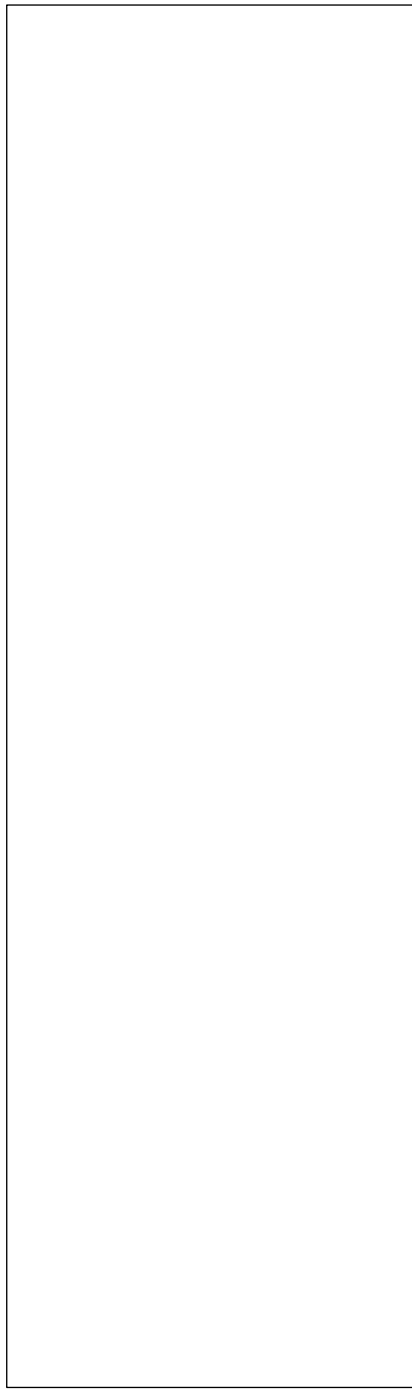
- ◎資料が自分の考えにつながっているかを考えさせる。
 - ・もう一度、自分の考えやその理由を振り返ってみましょう。
 - ・友達の資料から分かることは何ですか。
 - ・資料のどの部分から分かりましたか。
 - ・資料から他に考えられることはありますか。
- ◎自分の学んできた過程を振り返らせる。
 - ・授業の初めは、どうでしたか。
 - ・どうしたらできるようになりましたか。

固有種が教えてくれること⑦ 今泉 忠明

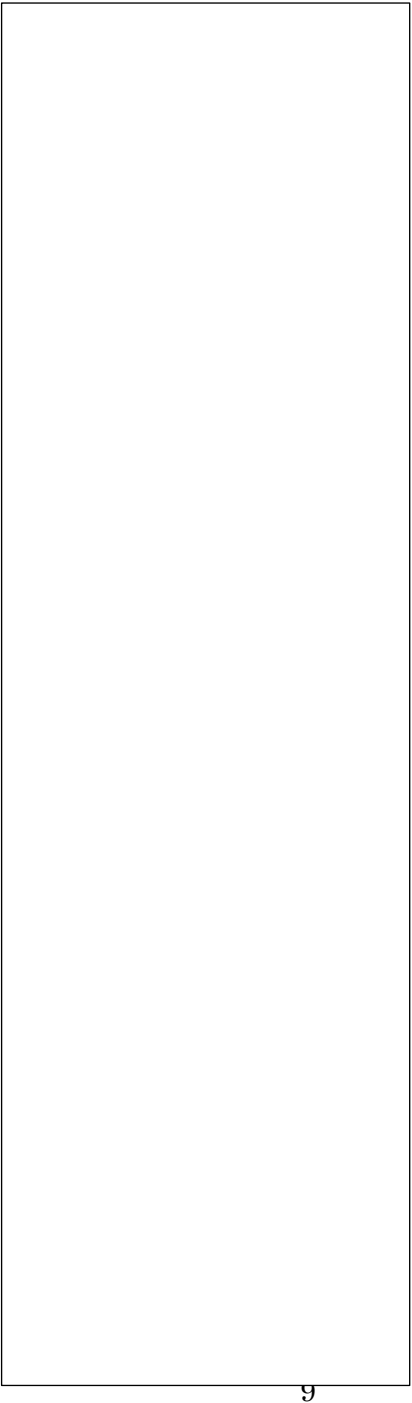
二組 番名前)

資料の効果

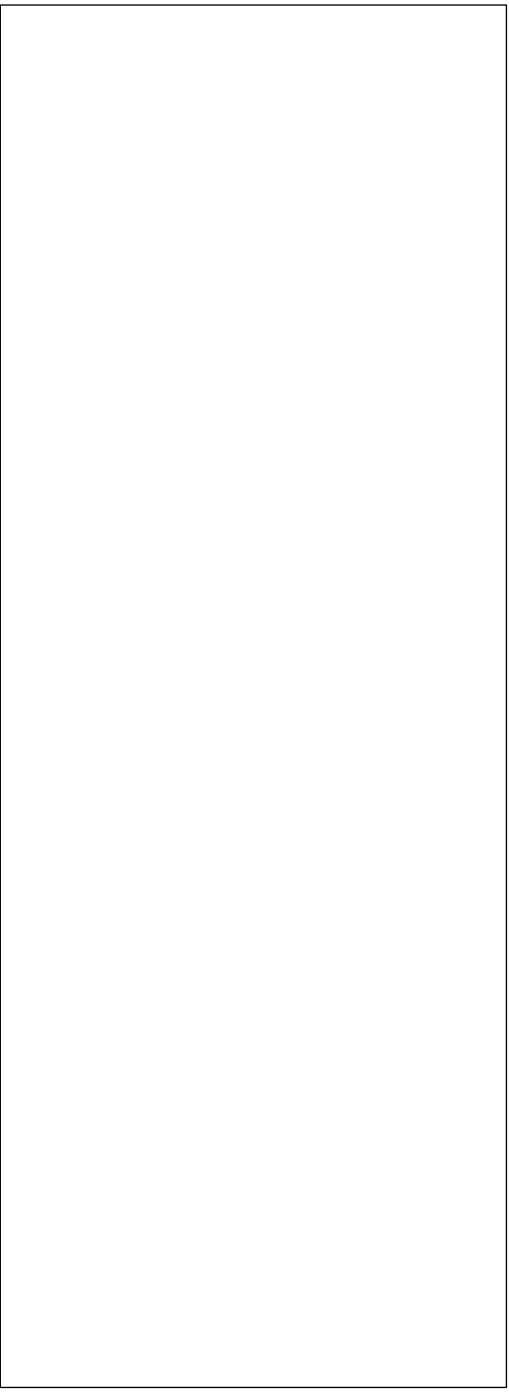
①資料があることによる



②もっと○○な資料があったらいい、この資料から○○とは言えない



資料6と7の効果



資料

名前 ()

○環境問題



○取り組み (○○な取り組みが必要だ。○○するべきだ)



○なぜその取り組みが必要か (なぜなら○○だから)

○資料から分かること・伝えたいこと

○対話メモ